

会 議 録

1 会議名

平成31年度第1回保倉区地域協議会

2 議題

【報告事項】

第6次行政改革推進計画及び事務事業評価の結果について（公開）

【自主的審議事項】

地域の安全・安心について（公開）

3 開催日時

平成31年4月23日（火）午後6時00分から午後7時06分

4 開催場所

上越市立保倉地区公民館

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 宮川和市（会長）、吉川善一（副会長）、池田つえ子、佐野和明、
中島 厚、松林 剛、丸山隆夫、山岸 功、渡邊良禎（欠席3名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：滝澤センター長、小池係長、千田主任
行政改革推進課：小酒井副課長、佐野主任

8 発言の内容

【滝澤センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【宮川会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：丸山委員、吉川副会長に依頼

議題【報告事項】第6次行政改革推進計画及び事務事業評価の結果について、担当課へ説明を求める。

【行政改革推進課：小酒井副課長】

・説明

上越市の総合計画では、健康福祉分野、教育分野、防災、産業、農林水産など、市が取り組むべきまちづくりの施策というものを掲げて推進していくこととしている。一方で限られた財源の中で既存の事業を行っていくことも困難な状況となっている。

将来世代に負担を残さないために事務事業の見直しや行政改革の取組等が必要となってくる。

本日は、総合計画の下支えとなる行政改革の取組の概要と事務事業評価の結果について説明させていただく。

- ・資料No.1 「第6次上越市行政改革の概要」、
資料No.1-2 「事務事業評価の結果について」に基づき説明

【宮川会長】

説明に対して質疑を求める。

【渡邊委員】

今ほどの説明では保倉地区に関する事業はないということだったが、それは保倉地区が取り残されているということの証明ではないかと感じた。

市全体のことを考えることも大事であり、それが第一義だと思っている。しかし、第1次総合計画から第6次総合計画に至るまで、保倉地区にどのような変化や対策があったのか。保倉地区だけでなく、市全体を見ても非常に困窮しており、何の進歩も感じられない。第6次総合計画まで何のためにやっているのかと疑いたくなるような面もある。

都市計画そのものが中心市街地を中心にしたものというのは国の指針が出ているので十分理解しているが、保倉地区は何の進歩もない。もちろん中心市街地は大事だと思っているが、見逃してしまう地域があってはならないと思っている。ネガティブな考え方はしたくないが、何の進歩もなく、取り残されているという考えを持たざるを得ないような実態というのは悲しいことである。

以前、高田の年配の商店街の人から「高田のまちが元気になるために高田周辺の町内が元気である必要がある」と言われたことがある。豊作の年は高田の町内が元気であり、不作だと元気がないと長い間言われ続けてきた。それほど周辺的作用というのは中心に

及ぼす影響がある。その辺を第6次総合計画の中で模索していかなければならないと思っている。

保倉地区は空気や水がきれい、自然が豊かであることが特色だが、これだけで活性化できるのか。住民はポジティブに考えてくれるのか。私は抽象的な考えで地方を一括してしまうのは非常に問題だと思っている。お金を掛けることだけが問題ではない。もう少し具体的に、保倉地区でこんなことを考えてはどうかというようなポジティブなものの考え方を提案してもらえないかと思っている。

苦情を言っても仕方がないが、住んでいる人が楽しく将来に望みがあるような地域づくりを考えることは市長をはじめ、市議会議員にとっては当たり前のことであり、市の職員にも真剣に考えてほしい。上越妙高駅ができ、水族博物館もできた。だが、そこが栄えれば活性化になったと言えるのか。私はそうは思わない。

そして、上越市の人口についてだが、年間でどれくらいの転入出があるのか。年齢層はどうか教えていただきたい。地区別に分かればありがたい。私が知る限り、新潟県全体で約6,000人が転出し、約4,000人が転入している。毎年2,000人から2,500人くらい減っている。そうすると上越市はどうか。上越市は少し前まで人口が減り、世帯数が増えていた。だが、最近では五分五分になってきた。この傾向をどのように捉えられているのか。

人口が減ってきて世帯数が増えていくというのは、地方にお年寄りがいて、若い世代は団地等に住んでしまう。地方は年寄りだけになる。ところが世帯数が増えるにも飽和状態になりつつある。その証拠に世帯数が減ってきている。人口が減っても世帯数が増えていけば救い道はあるが、世帯数も減ってしまえば市として致命的ではないのか。その辺を厳しく捉えていただきたい。

住みよい場所を作るにはどうしたら良いのか。地域協議会でも一所懸命考えていかななくては行けないが、市からもポジティブな考え方ができる指針を出していただきたい。

【行政改革推進課：小酒井副課長】

市の総合計画で人口減少での対策等を検討しているが、全国的な問題であり、これといった対策も難しいが、総合計画内には担い手の育成や地域産業の振興といった対策に取り組んでいくこととしている。

地域の将来についても考えていかななくては行けないので、総合計画を含めて市でもしっかりと対応していきたいと考えている。

地区別の人口増減については資料が手元にないため、お示しできないが、上越市では毎年1,900人程度の人口が減っている。このままいくと10年後、20年後にはかなり厳しい状況になることは推測される。

世帯数については、おっしゃるとおり若い世代の人が別の場所で住み、世帯数が増えているということだと思うが、一定程度の時期を迎えると減少してくると思っているので、市としても対策を講じていきたいと考えている。子ども医療費の無料化等も進めてきているので御理解いただきたい。

【宮川会長】

人口減少については上越市だけではなく、全国的な問題となっているため対策を考えるのは難しい。だが、市として人口減少に対する対策を検討していただけるようお願いするしかないと思っている。

【滝澤センター長】

平成17年の市町村合併当初、地域の声を市政に反映していく目的で13の旧町村の区域に地域自治区を設置し、各自治区に地域協議会も設置した。その後、平成21年には合併前上越市の区域に15の地域自治区、地域協議会を設置した。

それにより、全てが解決するというものではないが、人口減少の問題についても地域協議会内で話し合い、都市整備課とも協議を行いながら進めてきた。地域活動支援事業等も地域の課題解決に対し貢献している。また、自主的審議事項として地域の安全・安心について、地域の団体も含め、話し合いを進めてきていただいたところである。

いろいろな制度を活用しながら地域が置き去りにならないように皆さんから意見を吸い上げ市へ届けていきたいと思っている。

【宮川会長】

皆さんで力を合わせて前進するしかないと思っている。行政改革推進課でも、いろいろな方向から検討され進めているのだと思うが、なかなか思ったように進められないというのが見えてくる。だが、少しでも頑張ってもらい少しでも前進すべく、努力していただきたいと願っている。

【渡邊委員】

高齢化が進んでおり、特に保倉地区の高齢化は急激に進んでいる。世間では高齢者の運転事故も増えている。だが、運転免許証を返したらどのように生活していけばよいのかという問題が必ず出てくる。このような問題から逃げずに、運転免許証を返してもこ

んな方法で対策出来るというような前向きな検討も必要だと思っている。これは待って
くれない問題である。それが地域活性化に繋がってくる。

間違えているかもしれないが、新潟県五泉市においてはバスが市内を低料金の運賃で
運行している。できるだけお年寄りの方々から中心市街地へ出てきてもらい、医療機関
を積極的に受診してもらえらるような対策を考えたいとのこと。

上越市ではバス運行事業者へ助成金を出していると思うが、誰も乗っていないような
バスを循環させるのではなく、有効的な対策を考えなくてはいけない。本数を増やして
もバス停が自宅から遠ければバスには乗れない。

運転免許証を返納しても、お年寄りが積極的に外出できるようなチャンスを作ってほ
しい。これは新しい都市計画の中の基本だと思っている。もっと人間を生かしてほしい。

【宮川会長】

確かに免許証を返してしまうと、外にも出られないし、家にこもってしまう。病院に
行きたい時はどうすれば良いのかということもあるので難しい問題だと思っている。

今回はいろいろな意見を出させてもらっているが、行政改革推進課の皆さんから参考
にしていただき進めていただければと思う。

【行政改革推進課：小酒井副課長】

高齢化に伴う公共交通の在り方等については市でも検討していくこととしている。ま
た、高齢者の生きがいづくりという意味では、すこやかサロン等の事業を行っているが、
そのような事業と併せて総合的に進めていきたいと考えている。

【宮川会長】

ほかに意見等がないので終了とさせていただきます。

— 行政改革推進課 退室 —

次に【自主的審議事項】地域の安全・安心について、事務局へ説明を求める。

【千田主任】

・資料No.2「自主的審議事項『地域の安全・安心について』」に基づき説明

本日は、資料を元に審議の進め方について協議していただきたい。

【宮川会長】

事務局の説明に対して意見等はあるか。

【吉川副会長】

意見交換会では約40名いたが、思ったほど意見が出なかったように思う。進め方も

うまくなかったのかもしれないが、以前委員の皆さんから出していただいた災害対策や防犯対策についてももう少し細かく協議した上で保倉地区振興協議会の皆さんに投げかけたほうが良かったのではないかという気がしている。

【渡邊委員】

私も意見が出なかったように思うが、意見交換会のねらいはそれだけではないように思っている。大勢の人が集まり、地域協議会で保倉地区の問題について話し合っている、ということ幅広く知ってもらえたと思えば、意見が出なくても、意義があったのではないかと思っている。ただ、委員の皆さんは保倉川や青野池等の問題は気になるところだと思うが、活発な意見を出してもらうための材料にはならない。

【宮川会長】

地域協議会発足当初は多くの町内会長の方々から委員になっていただいていた。そのため町内会の動きと地域協議会の動きをある程度共有できていたが、現在は地域協議会委員に町内会長はおられないため、町内会長が多く役員となっている保倉地区振興協議会の皆さんと意見交換ができたことは、かなりプラスになったと思っている。

【吉川副会長】

プラスになったと思うが、どれだけ皆さんに浸透したかと言うと少し疑問を感じる部分はある。

【宮川会長】

次回以降、我々としても再度出された意見についてまとめ、また違った形で意見交換会をできればとも思う。

ほかに意見等がないので自主的審議事項については終了とする。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【千田主任】

- ・次回協議会の事務局案：5月29日（水）
- ・現在の地域活動支援事業に対する提案状況を報告

【宮川会長】

- ・次回協議会：5月29日（水）午後6時から

【吉川副会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。